支倉常長フェロー報告書

提出日　2011　年　1月　6　日

申　請　者	氏　名	千葉　秀平
	所属・職	生命科学研究科・助教
出張期間	2011 年 12 月　11　日　ー　12 月 15 日	
渡航先	米国　ペンシルベニア州フィラデルフィア	
渡航目的	学会参加・共同研究のための留学・（　　）	
発表演題名あるいは共同研究課題名	NDR-mediated Rabin8 phosphorylation is required for ciliogenesis	

得られた成果など

2010 年 12 月 10 日ー 12 月 15 日の日程で，米国ペンシルベニア州フィラデルフィアの Pennsylvania convention center で開催された 50th American Society for Cell Biology (以下，米国細胞生物学会) Annual meeting に参加いたしました。米国細胞生物学会は細胞生物学分野において、世界的に権威ある国際学会の 1 つとして位置づけられ、基礎生物学から病態・疾患に至るまで、毎年、約 30 のシンポジウムや約 3000 のポスター発表が行われます。世界中の細胞生物学研究に関わる研究者が集う最もレベルの高い学会であり、今年は開催 50 回目の記念大会ということもあり、様々な記念行事も含め例年以上に盛大な規模で開催されました。

私は、昨年に引き続き支倉フェローシップのご支援のもと、「NDR-mediated Rabin8 phosphorylation is required for ciliogenesis」の表題で発表を行わせていただきました。繊毛研究は米国を主導に盛んに研究が行われている背景もあり、セッション中には日本国内の学会とは比較にならないほどたくさんの繊毛研究者の方々が私のポスター発表を聴講して下さり、有益なディスカッションを行うことができました。また、分野外の研究者からもご意見をいただく機会に恵まれ、多くの知見やアイディアを得ることができたと感じております。大会期間中は、細胞骨格構築や細胞内物質輸送の研究領域の第一線で活躍する著名な研究者によるプレナリーレクチャーを拝聴し、研究分野の動向を知ることが出来、改めて自身の研究内容の位置づけやこれからの研究に対する明確な指針と目標を打ち出すことができたと感じております。

このような貴重な経験をさせていただき、学界参加に伴いご支援下さった支倉フェローシップに心より御礼申し上げます。